

## あの日から十七文字を数えながら

宮古市在住 宮古市田老地区にて被災 金澤 洋子

あの津波の日から、十年の時間が流れました。早いような、遅いような十年でした。あの震災の年に生を受けた子ども達も、十歳になります。震災を知らない子ども達も多くなりました。あの日からの出来事を、指折り十七文字を数えながら紡いでおります。(以下『海程』掲載句)

## 涙に笑い盛岡文士劇に雪

関係者の皆様のご支援をいただき、盛岡文士劇の総練習を観劇する機会をいただきました。グリーンピアの仮設住宅から大型バス2台で盛岡に向かいました。外は雪。文士劇の観劇は、涙あり笑いありのひと時で、あの津波の日からの生活の中で一番の贅沢な一日でした。乗り合わせた方々と、次は自分の力で、自分でチケットを買い求め文士劇をもう一度見に来ようと話ながら帰路につきました。十年経った今も、その夢は叶っておりませんがいつかきつとその夢を、叶えられる日が来ますように。

## 3. 11をやっと思える涙かな

毎日どこからか、涙声が聞こえました。真暗な闇の中から聞こえてくるすすり泣き。自分の心を押し殺しての日々。皆様のご支援で、一日一日と生活が落ち着き、仮設住宅での生活が始まりました。元の生活に戻るこ

とはありませんが、やっとスタートを切った新しい生活。あれから三年。苦しかった。情けなかった。がんばった。沢山の方々を支えられた日々。今、やっとあの日からの出来事を、あの日からの日々を、思えるようになりました。

## 一夜にて河原になり果つ稲田かな

### 秋出水救助隊員の泥顔や

東日本大震災からの記憶も薄れぬ、まだまだ復興も進まぬ中、岩泉町を襲った台風10号。小本川の氾濫により多くの家が流され、介護施設が大きな被害を受け、田畑が流され、多くの方々が亡くなられ、生活の基盤を失いました。穏やかな自然豊かな岩泉の町が一夜の間に変わり果てました。日本各地で起きている自然災害の恐ろしさ。今日という穏やかな日常が、明日必ず来るといふ保障のない生活。私達が流した涙と同じ涙を流す人々がいないように願うばかりです。

## 津波の日別れし友ら花の下

あの津波の日ちりぢりになった友。穏やかな春の日、花吹雪の中の再開。ささやかな幸せ。

大きな自然災害・コロナ禍と私達の生活環境は、日々変わっています。皆さんが穏やかに過ごせるように願うばかりです。